

新型コロナウイルス感染症に関する 支部アンケート調査結果報告

西宮・芦屋支部 半田 伸夫（医師）

【共同研究者】伊賀幹二 広川恵一 林田英隆 法貴 憲

新型コロナ感染症とそれに対する政府の対応は、臨床現場で様々な混乱を起こしてきた。その中で、政府は一般開業医での発熱患者診療や、PCR/抗原検査を推進しようと動いている。新型コロナウイルス感染症が指定感染症である限り、導線が一つしかない診療所での診療は難しいように思う。発熱のある患者さんに対して会員各位が、今後冬にインフルエンザ患者さんが増えた時にどのように対応を考えているのか。さらに我々は何を学んでいけばいいのかを確認したく、アンケート調査を行った。

609件送付し、内科が多いものの、病院や歯科、耳鼻科、小児科など多くの診療所から152件回答があった。全体では半数以上が対面診療を避ける結果であった。当初問題となった、保健所との押し問答は、アンケート実施時期9月ではかなり落ち着いていた。新型コロナ感染症を指定感染症Ⅱ類から解除すべきかどうかについては、経過を見てから解除すべきとの意見が半数であった。今回その内容を報告する。